



写真3. ジュンサイ栽培地。ヒツジグサとココナダモが繁茂している。



写真4. 乙女沼



写真5. 乙女沼のココナダモ。水表面はヒシ類



写真6. クロモとココナダモ共存からクロモ優占が観察された池。

現在、裏磐梯地方はリゾート開発指定地の核的な場所として注目され、観光開発が急ピッチで進行中である。その水質汚濁の進行に伴ってココナダモの分布が拡大されることが予想される。

参考文献

- (1) 星 一彰、1982. 3. 尾瀬沼にココナダモ侵入. 水草研究会報 No 7.
- (2) 星 一彰、1989. 福島県裏磐梯のココナダモについて. 日本生態学会東北地区会報 48. (投稿中)

〈抄録〉 G. Wiegleb "Notes on Japanese Ranunculus subgenus *Batrachium*. Acta Phytotax. Geobot. 39 : 117-132, 1988.

日本産バイカモ類の分類学的再検討を行なったもの。従来、バイカモとされていた植物は、異質な変異型を含むとして、バイカモ (狭義)、エチゴバイカモ、ヒルゼンバイカモの3変種に分類した。また浮葉をつくるイチョウバイカモ、オオイチョウバイカモ、ミシマバイカモはまとめてイチョウバイカモとした。その他に、北海道東部

に産する大形のバイカモを、新種オオバイカモとして報告した。

この研究は、日本産バイカモ類の分類に多くの問題が残されていることを指摘した点で、貴重な一石を投じたものと言えるが、その結論については、再検討すべき点が多々あるというのが、私の率直な感想である。

なお、本論文の別刷を預っていますので、御入用の方は切手175円同封の上、神戸大学教養部 角野康郎宛に連絡下さい。(角野)